

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／
武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10

【電話】 042-323-4103 【FAX】 042-300-0091

【E-mail】 museum@city.kokubunji.tokyo.jp

【HPアドレス】

http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2021.9
第46号



Temporary Exhibition



武蔵国分寺跡資料館 令和3年度秋季企画展

国分寺市の神社と祭礼 一時代と祭りの変遷一

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)
- 期 間 令和3年10月16日(土)～12月5日(日)
- 会 場 武蔵国分寺跡資料館 講座室
- 入 館 料 「おたかの道湧水園」への入園料が必要
- 休 館 日 月曜日(祝・振替休日の場合は直後の平日)
※状況により会期が変更となる場合があります。

現在、国分寺市内には多くの神社が点在しています。神社はその土地を守護する鎮守の神を祀る施設であり、「氏神」や「鎮守」とも呼ばれ、地域とそこに住む人々に寄り添い、親しまれてきました。国分寺市内の神社は、その多くが江戸時代の新田開発の時期に創建され、時代の変化を経て現在まで存続しています。

神社ではその年の無病息災や五穀豊穡を神様に願う例大祭が行われます。例大祭は神社と同様に地域の人々が主体となって行い、現在まで受け継がれてきたものです。その中で令和3年3月に本多八幡神社神輿が市の重要有形民俗文化財に指定されました。神輿は例大祭の巡行で中心的な役割を担い、この神輿は建造から200年以上経った現在でも本多八幡神社の例大祭で使用されています。この他にも市内では例大祭で本町囃子連・本村囃子連・恋ヶ窪囃子連などの囃子連が奏でる祭囃子の演奏と共に神輿や山車が渡御する姿を見ることができます。

本企画展では国分寺市内の神社とそこで行われている例大祭を中心に、神社がたどった歴史とその変遷や地域の人々の手で連綿と続いてきた祭りの姿を紹介します。(石井秀和)



国分寺市重要有形民俗文化財
本多八幡神社神輿



本村八幡神社山車
(平成2年8月撮影)



本村八幡神社例大祭での祭囃子 (平成元年9月撮影)

恋ヶ窪の阿弥陀坂と無量山道成寺 — 畠山重忠ゆかりの地をめぐる —

「姿見の池は、かつて付近の湧水や恋ヶ窪用水が流れ込み、清水を湛えていました。その名の由来は、鎌倉時代、恋ヶ窪が鎌倉街道の宿場町であった頃、遊女達が朝な夕なに自らの姿を映して見ていたという言い伝えによります。また、この池は「一葉松」の伝承の中にも登場します。源平争乱の頃、遊女の夙妻太夫と坂東武者で名将といわれた畠山重忠とが恋に落ちました。ところが、太夫に熱をあげるもう一人の男がいて、その男は重忠が平家との西国の戦で討ち死にしたと嘘をつき、あきらめさせようとしたが、深く悲しんだ太夫は姿見の池に身を投げてしまったと言い伝えられています。」これは、かつて恋ヶ窪地域の水田を潤していた清流を、JR 武蔵野線のトンネルから湧出する地下水の活用によって平成 11 年に復活再生した「姿見の池緑地」内の案内板に書かれている内容ですが、鎌倉時代の恋ヶ窪の宿場町には遊女達がいたという言い伝えや、一葉松の伝承とは、いったい何のことを指すのでしょうか？

現在に伝わる書物では、「恋が窪 古へ京師よりみちのくに至るの往復の地なり、此駅に遊女などありし也」、と書かれた享保 21 年 (1736) の『武蔵野地名考』が初出の史料で、寛政 6 年 (1794) の『西神地名録』には、「恋が窪村 村名珍しき称号也。初にいふこと古しへの古道にて、むかしは傾城数多有りてはんじやふの所にて、畠山重忠に愛せられし遊君自殺し、死せししるしの松有り。土人傾城が松と称す。いかにも年ふりし老樹にて、逆枝をうちて風ぞくよき松也。阿弥陀坂といふ所に草ぶきの阿弥陀堂有り。重忠彼傾城菩薩の為に、府中に今有る阿弥陀仏を安置せし旧地といふ也。うたがうふへきもなき実跡と思はれて、むかしを思ふ情ありし也。松のありし地に、古しへは無量山道成寺と号せし寺院の有りしよし。云ひ伝へのみにて今はなし。うつりかわるは世の流行にして、今は至而淋しき僻地也。恋が窪の地よりは古墓をほり出せし事ながら、いまいとやらん土人いふて、本の地中へほり埋しとの事也。けふも往來の傍らに応永年中の古墓有りしなり。今年まで凡四百余年なる年号也。珍しといふべし。」(原文表記) などと詳細を記しています。

その後、同種の伝承記事は文化 6 年 (1809) 太田南畝著『調布日記』、文政 6 年 (1823) 『武蔵名勝図会』、文政 11 年 (1828) 『新編武蔵風土記稿』、天保 5 年 (1834) 『江戸名所図会』をはじめとする様々な地誌類でも紹介され、内容はいずれも大同小異ではあるものの、約 600 年前の地域説話として後世に語り継いでいるのが特徴です。このうち、「一葉松」は里正作右衛門宅、「傾城の松」は八幡神社脇に聳え立つ村のシンボルで、街道を往来する人々の道標でもありましたが、『武蔵名勝図会』では市内西元町地区にある都指定名勝真姿の池湧水群を「姿見の池」と誤認しているほか、「夙妻太夫」

という具体的な遊女の名も、大正 5 年 (1916) に府中青年会が発行した『武蔵国府名蹟誌』ではじめて登場するなど、冒頭の案内板は後世に尾ひれがついて現在に至る説話の内容を反映しているものといえるでしょう (小野一之 2011 「鉄仏の来歴と畠山重忠伝説」『府中市郷土の森博物館紀要』第 24 号)。

一方で、伝承はすべてが虚構かといえ、必ずしもそうとは言えません。説話の要素のうち、とりわけ「阿弥陀坂」に着目して昔の景観を復元的に検討してみると、『江戸名所図会』では「阿弥陀坂」・「恋が窪」・「傾城が松」の 3 箇所を項立てし、当時の観光名所の一つであったことが判ります。「阿弥陀坂 恋が窪村の地北へ向ひて下る坂を云ふ。この坂の左に傍ひたる岡に草案あり。土人、阿弥陀堂と称す」、「恋が窪 同じ所、坂より下の低き地をいふ」とあり、地図で対比すると図 1 のイメージとなるでしょうか。近世恋ヶ窪村の中心は野川源流域にあたり、南北に細長い谷の両岸に小さな集落を構えていました。阿弥陀坂はこの集落へ抜けるために崖線を切通し状に開削した道路で、現在も JR 西国分寺駅上り側ホームの北側に、かつての景色を一部留めています。明治 22 年 (1889) の甲武鉄道開通により、坂の大部分は消失してしまったようです。

さて、昭和 48 年に武蔵野線の開通とあわせて西国分寺駅も開業しますが、40 年代の後半には周辺が開発



図 1 近世恋ヶ窪村の旧景観と阿弥陀坂・無量山道成寺推定地
(基図は、昭和 28 年 3 月東京都建設局調製 1/3,000 地形図
「国分寺」・「国分寺北」を張り合わせし、彩色・加筆した。)

の波が押し寄せ、恋ヶ窪・国分寺境にあった府中街道西側の樹林地で発掘調査を行ったところ、土壇を伴う礎石建て建物に瓦・板碑類が見つかり、一帯は武蔵国分寺に関連した遺跡であるとして「恋ヶ窪廃寺跡」と呼ばれるようになりました。その後も、昭和 55・56・62 年、平成 13～16 年度に調査を重ねた結果、遺跡は中世の鎌倉街道に沿って礎石建て建物と複数棟の掘立柱建物群を溝で囲んだ寺院跡で、周辺には 40 基以上におよぶ墓壇群（土壇墓・火葬墓）が広がり、切通し状の道路跡（阿弥陀坂の痕跡）も検出されました（図 2）。また、遺物は縄文土器や古代の須恵器・瓦が少量出土しましたが、主体は鎌倉時代後期から室町時代（14～15 世紀）の陶磁器・銭貨・板碑で、特に供養のために造立された板碑は、市内では恋ヶ窪廃寺跡と伝

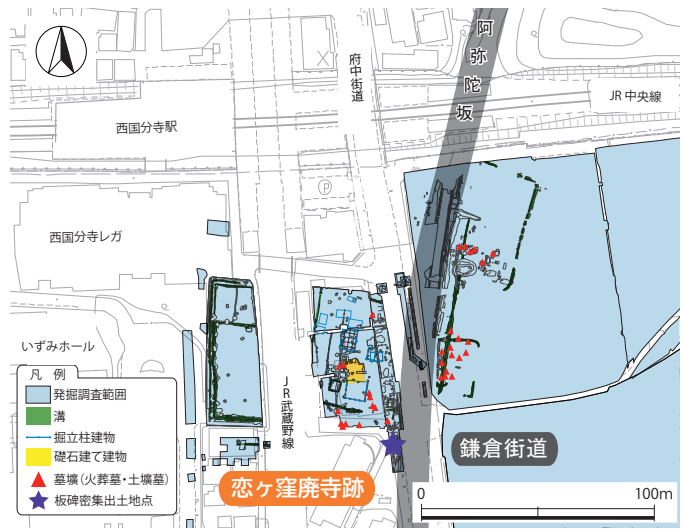


図 2 恋ヶ窪廃寺跡と鎌倉街道・阿弥陀坂
(昭和 46・55・56・62 年度、および平成 13～16 年度発掘調査地点の合成図)

祥栄寺跡で多く分布することが判明しています（岡田芳朗 1986『鎌倉・室町期の信仰と生活』『国分寺市史』上巻）。

恋ヶ窪廃寺跡では『四神地名録』に記された応永年間（1394～1427）の板碑が出土し、『新編武蔵風土記稿』の「彌陀堂 三間四面、村の南境にあり、府中高安寺持、木の坐像長二尺許、此堂昔は無量山道成寺とも云、或は飯寺とも云へるよし」と書かれた内容に照らすと、阿弥陀坂の脇に、かつて存在していたという阿弥陀堂（无量山道成寺跡）の可能性が浮かび上がります。その詳細については、引き続き追究してみたいと思いますが、おたかの道湧水園内には、初回の調査で見つかった礎石建て建物の礎石を移設展示しているほか、板碑・陶磁器をはじめとする主要な出土品は文化財資料展示室（市立第四中学校内）にて御覧いただけます。（依田亮一）

発掘された国分寺市 2021

令和 3 年 8 月 3 日から 9 月 12 日まで実施した「発掘された国分寺市 2021」では、平成 30 年度・令和元年度に行った発掘調査の成果をご覧いただくことをテーマとして実施しました。

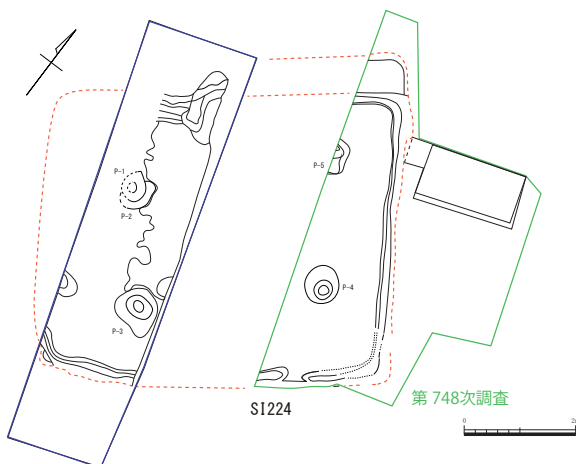
国分寺市内には市名の由来となった武蔵国分寺の遺跡以外にも、3 万 5000 年前の旧石器時代から近現代に至る様々な時代の遺跡が存在します。このような遺跡が眠る場所は「埋蔵文化財包蔵地」と呼ばれ、掘削工事を行う際に届出が必要となります。埋蔵文化財包蔵地は市内に現在 46 か所存在し、工事によって遺跡が失われる場合、記録という形で将来に残すために発掘調査を実施しています。



展示中の様子

調査の一例として今回展示した竪穴住居の調査をご紹介します。竪穴住居とは地面を深く掘り下げて床を作り、柱を立てて屋根をかざした住まいです。時代や地域によって若干の違いはありますが、縄文時代から古代にかけて、一般の人が住む家として作られました。形は同じでも住居以外の目的の建物も存在していたようです。武蔵国分寺跡ではこれまでに 1000 軒を超える住居跡が見つっています。

令和元年度（2019）に実施した武蔵国分寺跡第 748 次調査では、昭和 55 年度（1979）の第 103 次調査で検出された住居の続きが、およそ 40 年ぶりに発見されました。一つの住居を分割して調査したことになりますが、2 回の調査によって、竪穴住居の全体像が明らかになりました。この他にも、恋ヶ窪遺跡出土の土器のうち、これまでに展示の機会がなかった土器の展示も行いました。（中野 純・渡邊典子）



第 103 次調査

※ S1224 武蔵国分寺跡で 224 番目にみつけた竪穴住居

発掘調査で見つかった竪穴住居

（第 103 次調査は昭和 54 年度、748 次は令和元年度に調査を行いました）

おたかの道湧水園無料公開日のお知らせ

おたかの道湧水園では開園記念日にあわせて、右の日程で湧水園を無料公開いたします。当日は園内の資料館へも無料で見学いただけます。

【開催日時】
令和3年10月17日(日)
午前9時～午後5時
(入園は午後4時45分まで)

※ご来園の際は手指の消毒や建物内の人数制限の遵守など感染拡大防止へのご協力をお願いします。

INFORMATION

こども歴史クイズラリー開催のお知らせ



おたかの道湧水園では右の期間中にこども歴史クイズラリーを開催します。園内各所に設置されたクイズに答えながら園内を回る形式のクイズとなっており、楽しく園内のことを学ぶことができます。

【開催日時】 令和3年10月23日(土)～11月6日(土)
【対象者】 小学生・中学生※小学3年生以下は保護者同伴
【場 所】 おたかの道湧水園内
【問合せ先】 ふるさと文化財課 042-300-0073

体験イベント「レプリカをつくろう！」



武蔵国分寺跡資料館所蔵の鎧瓦等の小さなレプリカを作ります。型取りした後に、好きな色を塗った完成品をお土産として持ち帰ることができます。

【開催日時】 令和3年11月6日(土)
【対象者】 小学生・中学生※小学3年生以下は保護者同伴
【場 所】 おたかの道湧水園内
【問合せ先】 ふるさと文化財課 042-300-0073

※雨天中止

来館者数

2009年10月18日～2021年7月末日

来館者数累計 144,352名

多くのご来館ありがとうございました

【4月～7月の学校見学】

	学校数	人数
小学生	5	417
中学生	1	3
高校生	1	2
大学生	1	22

※4月27日～6月7日は緊急事態宣言に伴い臨時休館とさせていただきます。

月	来場者数	開館日数
4	997	21
5	0	0
6	588	20
7	611	27
計	2,196	68

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

※上記のイベントは、新型コロナウイルス感染症の状況により変更・中止になる可能性があります。お手数ですが市HPなどで最新情報をご確認ください。

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内

※新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用・手指の消毒などにご協力ください。



交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車／徒歩約20分 JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】国分寺市循環バス「ぶんバス」万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車／徒歩約8分

○国分寺市循環バス「ぶんバス」日吉町ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

○国分寺駅南口より「京王バス」系統番号〈寺83〉・〈寺85〉乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)
一般……………100円(年間パスポート1,000円)
中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- (1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
 - (2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
 - (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



ホームページQRコード